

# 日風堂

〈高知県立歴史民俗資料館だより・おこうふうじつ〉

第60号 2007年6月30日

海援隊約規  
 凡帯ノ本藩ヲ脱心者  
 及他藩グ脱心者海  
 外志アル者此隊入ル  
 逆輸射利開拓採  
 掘木商ノ意欲ヲ為ス  
 ノ以テ主トム分後自他  
 ニ論テ其志ニ從テ撰  
 ケ入之  
 凡隊中ノ事一切隊長  
 處分ニ任テ敢テ或ハ違  
 背スル勿レ若墨乱事  
 ノ破リ去御客引リ  
 上ノハ隊長共死活ッ  
 制タルモ亦許ス  
 凡隊中急難相救困  
 厄相救リ義兵相  
 賞條理相起若人  
 標旗ノ果激濟輩  
 ノ妨シ成レシ若クハ  
 輩相推ノ業特テ

輩相推ノ業特テ  
 他人ノ妨シ為ス是尤  
 曠ハ可キ所敢テ或  
 犯ス勿レ  
 凡隊中修業分課  
 政法大技航海流檣  
 語學等ノ如キ其志  
 隨テ執之互ニ相勸  
 勵敢テ或ハ懈ル  
 勿レ  
 凡隊中所費ノ錢  
 糧具自營ノ功取  
 亦互ニ相分配シ私ル  
 死アル勿レ若クハ  
 月度不足或ハ其  
 料缺乏ノ致ストキハ  
 隊長建議シセバ  
 官ノ給辦ヲ誤ソ  
 右五則

〔海援隊約規〕（弘松家蔵）

## 資料見聞 海援隊約規

「藩を脱する者、海外の志ある者」これだけが海援隊に入るための条件でした。幕末にこの条件だけを掲げる所に、海援隊の志の高さが表れています。

この資料は海援隊の規則を書いた「海援隊約規」で、坂本家の親戚の弘松家に伝わっている資料です。全五ヶ条からなり、入隊条件の他、隊長の権限や隊士の義務、隊士の給与などが定められています。幕末には新選組や奇兵隊、赤報隊など百以上のグループが存在しますが、海援隊が他と決定的に違うのは、自分たちで稼いだお金で隊を運営しようとしていたことです。

海援隊約規には、これと別系統で伝わった資料があります。土佐藩上士・福岡孝弟が書き記したもので、上記の文面の後に、「今後海陸ヲ合セ号シテ翔天隊ト云ン」という文章などが続いています。土佐藩では、海援隊と陸援隊を合わせて翔天隊と呼んでいたのです。

龍馬の海援隊と中岡慎太郎が創った陸援隊は、一四〇年前に二人が暗殺されたことによって、間もなく解散しました。この両隊には大空を舞う鶴のように、自由と大いなる可能性が秘められていましたが、暗殺という卑劣な手段で失われたのは、とても残念です。

（高知県立坂本龍馬記念館 三浦夏樹）

特別展 3館合同企画

暗殺140年！時代が求めた命か？

# 「坂本龍馬・中岡慎太郎展」(総合展示)

平成19年7月28日(土)～8月28日(火)

## ●展示構成と内容

### 1. 二人の生い立ち

坂本龍馬は天保六年(一八三五)高知城下に、中岡慎太郎はその三年後北川郷(今の高知県北川村)に誕生しました。

二人が生まれた天保年間、大塩平八郎の乱(一八三七)、老中水野忠邦(一七九四～一八五二)による天保の改革と失敗など、封建支配の身分秩序が大きく揺さぶられた時代でした。

平成一九(二〇〇七)年は、中岡慎太郎と坂本龍馬が京都で暗殺されて一四〇年になります。また、大政奉還が行われて一四〇年にもあたります。

この節目を期に、高知県の歴史系総合博物館である当館は、幕末維新を専門とする高知県立坂本龍馬記念館(以下、龍馬記念館)・北川村の中岡慎太郎館(以下、慎太郎館)との3館合同で慎太郎と龍馬を取り上げる特別展を開催します。

展示内容は、慎太郎と龍馬をキーワードに、幕末維新时期における二人の存在の位置づけおよび活動内容について再考します。同時に、「土佐勤王党」「薩長連合」「近江屋事件」をキーワードに土佐藩の幕末維新史を再考する事も試みたいと思います。

なお、本展は「暗殺犯は誰か？」を断定しません。

また展示方法も、われわれ主催者側が提示する判断材料(暗殺に至る経緯と時代背景)を元に、来館者が答えを出す、問題提示型の方法を取ります。



坂本家邸跡写真(明治末年撮影)

またそれは土佐も例外ではなく、天保庄屋同盟(一八四二)、名野川農民逃散(一八四二)など、農民層による動きが起こっています。海外に目を向けると、産業革命に成功した欧米諸国が、新たな市場を求めて、積極的にアジアに進出し始めた時期でもあります。



中岡慎太郎生家(復元)

このように、二人が生まれた時代は、新しい時代に向けた動きがはじまろうとする時なのです。

二人の誕生はまさに「時代が求めた」といえるのではないのでしょうか？

### 2. 土佐勤王党

— 新しい時代への飛躍 —

万延元年(一八六〇)、桜田門外の変で、大老井伊直弼(一八一五～一八六〇)が暗殺されました。徳川幕府の重臣が、白昼堂々、殺されるといふ衝撃は全国に広まりました。また、海外においても新聞で大きく報道されました。

まさに時代が大きく変わろうとした始めたのです。その動きは、長州藩、薩摩藩など西日本の諸藩からはじまりました。

尊王攘夷運動の始まりです。

土佐藩でも、この動きに応じるため、武市半平太を中心とする団体が結成されました。土佐勤王党です。

勤王党には、本展の主人公、坂本龍馬・中岡慎太郎をはじめ、二〇〇人程が加わりました。

しかし土佐藩の厳格な身分秩序と藩政の実権を握る吉田東洋は、勤王党の政治的発言を許しませんでした。

やがて両者の火花は東洋の暗殺(文

久二年）へと発展しました。

藩政の実権を握った勤王党は、文久二年後半～三年前半（一八六二～一八六三）までの期間、長州と連携しながら、尊王攘夷運動を推進しました。



「七卿落図」（中岡慎太郎館蔵）

武市の政治構想は、天皇を頂点に、将軍が諸大名を統率して「攘夷」を実行することでした。つまり徳川幕府の存在を否定してはいけません。

しかし、長州を中心とする政治運動は、天皇の意思を通り越し、次第に過激さを増していきました。長州がそのことに気付いたときにはすでに孤立していました。

その結果起こった事件が「八月一日の政変」です。

この政変によって尊王攘夷運動は壊滅します。同時に藩政の実権を取り戻した山内容堂は、武市ら主要メンバーを次々に牢獄にいれました。

勤王党大弾圧によって、勤王党は崩

壊、武市らの釈放を求めて立ち上がった野根山二十三士の処刑など、多くの命が失われました。



「武市瑞山宅跡並切腹図巻」（高知県立歴史民俗資料館蔵）

勤王党を中心にした土佐藩の政治状況と二人に与えた影響、そして二人が脱藩した理由に対する理解を深めるため、「土佐勤王党」に関しては、部門展示を設定し、北川村の中岡慎太郎館で展示します。

### 3. 二人の活躍

― 殺された背景は？ ―

二人の活躍で欠かせないのは、薩長連合、そして海援隊と陸援隊の結成です。

薩長連合といえば、「犬猿の仲だった薩摩藩と長州藩を龍馬が中心になって結びつけた」「龍馬はもろんだが、実際は裏方で頑張った慎太郎の功績が大きい」、はたまた「討幕のための軍事同盟」といわれます。では実際はどうだったのでしょうか？

宮内庁書陵部にある、伊藤博文や山田宇右衛門らが木戸孝允に宛てた書状（慶応元年）を見ますと、龍馬と慎太郎が、薩摩藩名義による軍艦と武器調達を働きかけている事、長州藩から薩摩藩へ米を調達できるよう便宜を図っている事などが書かれています。

これは龍馬と慎太郎ら土佐の脱藩郷士に西郷隆盛や木戸孝允ら薩長の代表者たちが連携しあってできた事業という方が実態に近いと言えます。

また、龍馬の裏書き（宮内庁書陵部蔵）を見ましても、「討幕」というより、むしろ、四面楚歌の情態にあった長州藩の救済が当面の目的と考えられます。それゆえ「討幕のための軍事同盟」というのはあくまで結果論といえます。

また、「討幕」ということも注意して見る必要があります。

まず、龍馬と後藤象二郎が推進した「大政奉還」は平和的手段での「倒幕」、慎太郎と乾退助（のちの板垣退助）が薩長と連携しての武力行使が「討幕」といわれます。



「大政奉還建白の副書（写）」（足立隆文氏蔵）

しかし、慶応三年（一八六七）、「大政奉還」実現のために薩摩と土佐で結んだ「薩土盟約」を見ますと、そう簡単に言えないのです。

というのも、両者の間には「徳川幕

府は大政奉還を拒否するだろう」という前提があり、それを「討幕」を正当化するための根拠にしているように考えられるからです。

事実、盟約を結ぶ際、土佐藩からも軍隊を連れてくる約束がかわされています。そして龍馬は長崎からライフル銃一千挺を土佐に持ち込んでいます。

次に、海援隊と陸援隊コーナーでは

主な隊員、組織と活動内容、そして「船中八策」と「時勢論」の内容から二人の政治ビジョンを探ります。

慶応三年四月に海援隊が、七月に陸援隊が結成されました。

これらは、土佐藩の正式な組織ではなく、いまでいう外郭団体のような組織です。二人が描く夢と未来像を具体化するための組織といえます。

また、この時期は暗殺につながると考えられる事件が発生していることで、犯人を探る手掛かりを提示することにもなると考えられます。

#### 4. 暗殺！

今から一四〇年前に近江屋で起こった暗殺事件の謎は、今なお解明されていません。まさに幕末最大のミス터리です。

暗殺の実行犯は、今のところ、京都見廻組説が有力です。

では黒幕は誰か？何のために二人を殺させたのか？となると、様々な説があります。

主な説は次の通りです。

- ①幕府説…大政奉還で幕府が滅亡した事に対する恨み。
- ②紀州藩説…「いろは丸事件」で海援隊に恨みを持った。
- ③薩摩藩説…討幕を実行する上で邪魔になった。
- ④土佐藩説…大政奉還の手柄を独占するため。

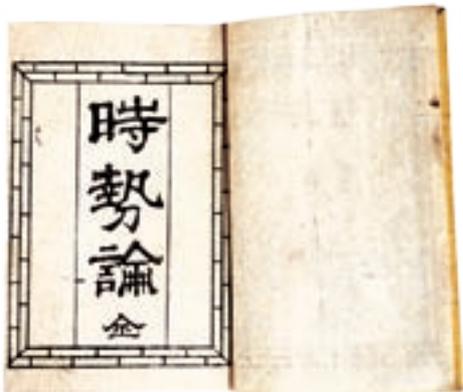
この件については決定打となる資料が見あたらないので、断定する事は出来ません。しかし、二人の行動や政治ビジョン等を探る事で、手掛かりがつかめるのではないかと思います。

また、暗殺事件を通じて、当時の政治社会像の一端を浮き彫りにすることも試みます。

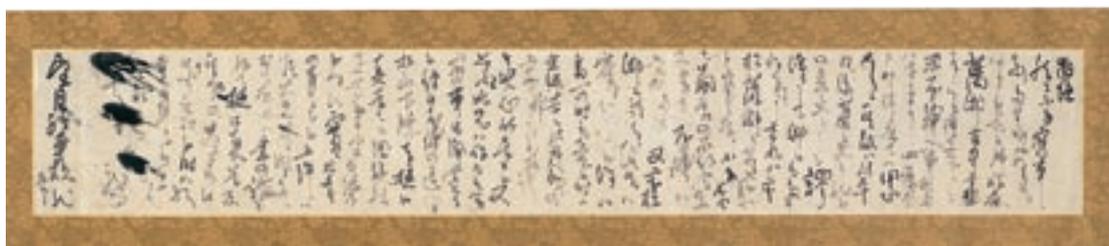
二人が描いた夢と未来への展望に対する理解を深めるため、「海援隊と陸援隊」は、部門展示を設定し、高知県立坂本龍馬記念館で展示します。



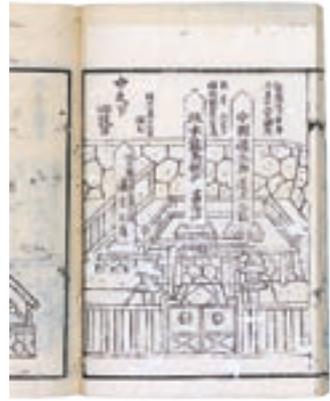
「エンフィールド銃」(高知県立歴史民俗資料館蔵) 龍馬が土佐に持ち込んだライフル銃



「時勢論」(霊山歴史館蔵)



「慶応三年十月十八日望月清平宛(身の危険を知らせる手紙)」(高知県文教協会蔵)



「隠菟岐集」(高知県立歴史民俗資料館蔵)

ここまで書くと、3つの会場に行けば犯人が解るのか?と思われたのではないのでしょうか?

いえいえ、この謎解きの楽しみを私たち主催者だけのものにする訳にはいきません。むしろ、これから展示をご覧になる皆様方のお知恵も借りながら取り組んでみようと思います。

私たちは、「資料展示」、「講演会」、「図録」等々で判断材料を提示します。皆様はそれを基に謎解きに取り組んで頂きたいと思います。

そうです、皆さん一人一人がミステリーハンターなのです!  
我こそは!というあなた、是非3つの会場に足を運んで、この謎に果敢にチャレンジして下さい!

### ● 展示予定資料

- ・ 左記の人物・団体・事件等に関する遺品・遺墨類等
- ・ 坂本龍馬、中岡慎太郎、武市半平太、吉村虎太郎、近藤長次郎、田中光顕、山内容堂、後藤象二郎、板垣退助、福岡孝弟、谷干城、佐々木高行
- ・ 土佐勤王党、海援隊、陸援隊、薩長連合、大政奉還、討幕、近江屋事件

### ● 展示資料所蔵機関(予定を含む)

- 高知県立歴史民俗資料館、高知県立坂本龍馬記念館、中岡慎太郎館、青山文庫、土佐山内家宝物資料館、高知文教会館、宮内庁書陵部、京都国立博物館、霊山歴史館、京都府立総合資料館、京都大学附属図書館

※総展示数は三館あわせて二〇〇点前後の予定(高知県内に残る資料を中心に展示)。

### ● 特別展示関連行事

- 展示室トーク(高知県立歴史民俗資料館)
  - 八月五日(日)・十九日(日)・二十六日(日)
  - 午後二〜三時

※担当学芸員による展示内容の解説です。これを聞けばあなたも龍馬・慎太郎通になれますよ。

### ● 特別講演会

- 八月十一日(土) 午後二〜四時
- 会場…高知県立美術館ホール (定員四百名)

- 講師…青山忠正氏(佛教大学教授)
- 演題…「慶応期の政局と龍馬・慎太郎―薩長連携を中心に―」

※青山氏は『明治維新と国家形成』、『明治維新の言語と史料』など幕末・維新に関する論考を多数著しています。またNHKの「その時歴史が動いた」にも出演されていましたので、ご存じの方もいらっしゃると思います。

当日は、徳川幕府を崩壊へと導いた慶応年間の政治的動きとは?その中で二人の活動はどの位置づけられるのか?を薩長連携(いわゆる薩長連合)を中心にお話し頂く予定です。

申込み方法は次の通りです。

### ● 特別講演会申込み方法

先着順、葉書かEメールで事前に申込みください。

### ● 申込先

〒七八一〇二六二  
高知市浦戸城山八三〇  
高知県立坂本龍馬記念館  
TEL 〇八八-八四一-〇〇〇一  
FAX 〇八八-八四一-〇〇一五  
e-mail ryoma@kochi-bunkazaidan.or.jp

### ● 三館周遊バスツアー

八月四日(土)・八日(土)・二十五日(土)の3回  
※展示会場となる3館を巡るバスツアーです。  
当日は、担当学芸員およびボランティアガイドが同行して、展示内容について解説します。  
(七月一日より高知県立坂本龍馬記念館へお申し込みください。)

以上のように、今年の土佐の夏は、龍馬・慎太郎について満喫できる行事が目白押しです。

また、二人の書状や遺品類が一堂に並ぶ事は滅多にありません!  
是非、この機会をお見逃ししないようお願いします!!

(中岡慎太郎館 学芸員 豊田満広)

特別展 3館合同企画

暗殺140年！時代が求めた命が？

「坂本龍馬・中岡慎太郎展」部門展示

## 高知県立坂本龍馬記念館

### 「海援隊・陸援隊」展

会期：平成十九年七月二八日(土)

～九月三〇日(日)

龍馬記念館では、海援隊と陸援隊の活動内容を明らかにし、幕末に果たした役割や、両隊が今後どのような役割を果たすはずだったかを考え、展示します。

また、海援隊と紀州藩が起こした海難事故である「いろは丸事件」は、紀州藩暗殺黒幕説を生み出した事件です。これは暗殺直後、最も信頼されていた説ですので、詳細な展示を行いたいと思います。

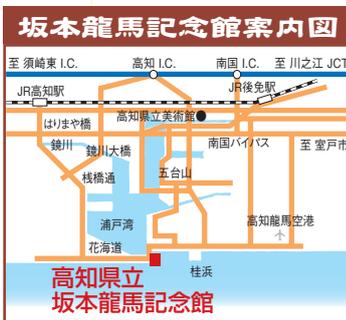
### 「龍馬を見抜いていた男 樋口真吉展」

会期：平成十九年十月一日(月)～十二月十六日(日)

樋口真吉は、幕末の幡多郡中村の郷土に生まれました。文武両道で、中村の家塾には千人余りの若者が学んでおり、幡多郡の首領格のような存在でした。真吉は、二十歳年下の龍馬の才能を早くから見抜いており、脱藩前に「坂龍飛騰」と日記に記し、これからの活躍を予言しています。龍馬も真吉を慕っており、暗殺一ヶ月前の手紙では、身の危険が迫っているのに、真吉に新しい宿を探してもらいたいと書いています。知られざる龍馬の師・樋口真吉のことをこの機会に多くの方に向けて頂きたいと思えます。

### 「幕末写真館展」

会期：平成十九年十二月十七日(月)～平成二〇年三月二〇日(木)



樋口真吉



いろは丸想像図

## 北川村立中岡慎太郎館

### 「土佐勤王党展」

会期：平成十九年七月二八日(土)

～八月二八日(火)

当館では「土佐勤王党」を座標軸にして、土佐藩の政治状況と二人に与えた影響、そして脱藩した理由について取り上げます。

具体的には、メンバー構成、武市半平太を中心にみた土佐の勤王思想、活動内容、土佐勤王党に対する藩内の評価等について紹介します。

また、土佐藩は、上士と郷土との対立がよくわかります。はたしてそれが創作なのか？二人の暗殺とも何か関連するのか？といった事も紹介します。

### ・秋期企画展

### 「中岡慎太郎のお仕事」

会期：平成十九年十一月一日(木)

～十二月二七日(木)

中岡慎太郎が大庄屋見習いとして、志士としてどんな活躍をしたのかを小中学生向けに紹介。

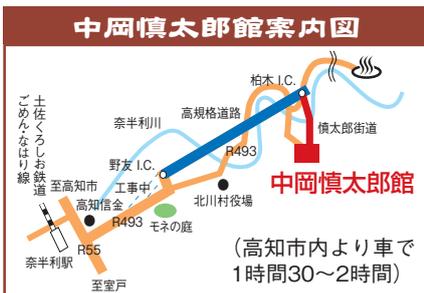
### 「収蔵品展『掛軸の春』」

会期：平成二〇年一月七日(月)

～三月三十一日(月)



中岡慎太郎館



「武市半平太他捕縛状 写」(利岡家文書)(中岡慎太郎館蔵)

わくわくわくわく

参加者募集中!!

うきうきわくわくの夏休み♪歴民館では親子で参加できる催し物を開催します。  
ぜひご参加ください!

### 七夕飾りに挑戦!!

高知県各地域の七夕飾りを再現してみませんか?今年は津野町芳生野のワラ馬を下げる七夕飾りを作ります。

普通の七夕飾りとはちょっと違う歴民の七夕です。

旧暦の七夕に合わせて開催します。

8月18日(土)10:00~12:00

定員30名(先着順)

電話かEメールでお申し込み下さい。



### 水鉄砲を作ってみよう!!

みんなダイスキ水鉄砲!

竹筒で作る昔懐かしの水鉄砲です。

夏休みの工作にもぴったりなのでは?

8月25日(土)10:00~12:00

定員30名(先着順)

電話かEメールでお申し込みください。



## 歴民館公式ブログ『岡豊山さんぽ』をはじめました。

歴民館職員による、岡豊山フォト日記です。岡豊山の四季折々の写真を掲載中!!

岡豊山の魅力をたくさんの方に知っていただくため日々デジタルカメラと格闘中です♪  
ぜひご覧下さい。

歴民公式HP又は岡豊山さんぽで検索

岡豊風日がホームページでも  
ご覧頂けるようになりました。

5月19日歴民館入場者  
50万人突破しました!!

歴民館公式HP一部リニューアル!!

●●● 新刊等のご案内 ●●●

「収蔵資料目録第11集

四国遍路関係資料目録I」



当館が収集した四国遍路関係資料の四国遍路絵図、納経帳等の資料をカラー図版で掲載。

A4版 24頁  
 売価 550円  
 送料 180円

「収蔵資料目録第12集

田辺寿男写真資料目録I

(白黒ネガフィルム編)」



民俗写真家・田辺寿男氏から寄贈された約50,000点の資料のうち白黒ネガフィルム26,578点の目録を収録。

A4版 112頁  
 売価 750円 送料 310円

「高知県立歴史民俗資料館

研究紀要第15号」



土佐清水市四国霊場第38番札所金剛福寺一木造千手観音菩薩立像修理報告及び像内納入品概要報告—  
 高知県教育委員会文化財課 助美術院国宝修理所 泉谷 申一  
 高知県立歴史民俗資料館 寺石正路資料調査報告Ⅱ 杜山堂日記2 野本 亮  
 門松小考 梅野 光興

A4版 76頁  
 売価 750円 送料 290円

- 郵便振替口座番号 01600-2-38806
- 加入者名 高知県立歴史民俗資料館

臨時休館のお知らせ：7月27日(金)、8月29日(水)(特別展展示替のため)

岡豊風日(おこうふうじつ) 第60号  
 平成一九年六月三〇日  
 編集・発行 高知県立歴史民俗資料館  
 〒783-0044 南国市岡豊町八幡1099-1  
 TEL 088-8622211  
 FAX 088-8622110  
 開館時間 午前9時～午後5時  
 休館日 年末年始(12月27日～1月1日)、臨時休館あり  
 観覧料 通常期(常設展)大人(18才以上) 450円・団体(20人以上) 360円  
 無料・高校生以下、高知県及び高知市長寿手帳所持者・療育手帳・身体障害者手帳・障害者手帳・戦傷病者手帳・被爆者健康手帳所持者とその介護者(一名)  
 印刷 共和印刷株式会社

http://www.kochi-bunkazaidan.or.jp/~rekimin/  
 eメール: rekimin@kochi-bunkazaidan.or.jp

平成19年7月～9月の催し

3館合同企画

特別展

暗殺140年！—時代が求めた“命”か？—

総合展示

『坂本龍馬・中岡慎太郎展』



平成19年7月28日(土)～8月28日(火)

平成19(2007)年は、坂本龍馬と中岡慎太郎が京都で暗殺されて140年になります。また、大政奉還が行われて140年にもあたります。

本特別展は、この節目を期に、高知県立歴史民俗資料館・高知県立坂本龍馬記念館・北川村の中岡慎太郎館の3館合同で開催します。

観覧料：大人500円(団体400円)  
 高校生以下無料

部門展示 「海援隊・陸援隊展」高知県立坂本龍馬記念館

高知市浦戸城山830 TEL 088-841-0001

平成19年7月28日～9月30日

観覧料：500円 高校生以下無料

部門展示 「土佐勤王党展」北川村立中岡慎太郎館

安芸郡北川村柏木140 TEL 0887-38-8600

平成19年7月28日～8月28日

入館料：高校生以上500円 小・中学生300円

特別展講演会

要予約

はがきかeメールで。定員は400名です。

8月11日(土)

14:00～16:00

会場：高知県立美術館ホール

申込先

〒781-0262  
 高知市浦戸城山830  
 高知県立坂本龍馬記念館  
 TEL 088-841-0001  
 Eメール ryoma@kochi-bunkazaidan.or.jp

「慶応期の政局と龍馬・慎太郎—薩長連携を中心に—」

青山忠正氏(佛教学大学教授)

展示室トーク

担当学芸員による展示解説です。

8月5日(日)・19日(土)・26日(日) 14:00～15:00

会場：高知県立歴史民俗資料館

3館合同企画展見学バスツアー開催

8月4日・18日・25日

7/1より申込受付 高知県立坂本龍馬記念館へ申込。  
 申込方法は、募集要項などでお知らせ致します。

次回企画展予告

「土佐発掘物語」

平成19年10月6日～11月25日

土佐での発掘はいつ頃から始まったのか？  
 土佐の発掘史を写真・出土遺物でたどります。



山村民家から眺める初夏の風景

岡豊山の  
 さんぽ道